



東松山市長 森田 光一氏

市長のメッセージ

花とウォーキング、そしてノーベル物理学賞受賞者である梶田隆章博士^{かじ たかあき}が生まれ育ったまち、東松山市は、昭和29年に1町4村の合併により誕生し、昨年に市制施行70周年を迎えました。また、教育・医療機関や働き場所、商業施設などがそろっており、生涯にわたり住み続けられる自己完結型のまちとして、東洋経済新報社が毎年発表している「住みよさランキング」では2022年から3年連続で県内1位となりました。

これからも「観光振興」「産業振興」「子育て支援」「防災・減災対策の推進」「地域福祉の充実」を中心に、全ての市民の皆様が住み慣れた地域でいつまでも安全・安心に暮らせる社会の実現に向け、全力で取り組んでまいります。

はじめに

東松山市は、都心から50km圏内、埼玉県のほぼ中央に位置する。市内には関越自動車道、国道254号・407号バイパスが交差するほか、東武東上線が南北に走り、交通の利便性が高いまちである。恵まれた立地条件と交通体系により、都市機能と住環境が相まって発展しながらも、緑と清流を身近に残す東松山市は、比企地域の中心都市として、古くからその役割を担っている。

花とウォーキング、文化・芸術の振興

本年で第48回を迎える「日本スリーデーマーチ」は、世界第2位、日本一の規模を誇る国際ウォーキング大会である。日ごとに変わる5kmから50kmまでの6つのコースが用意されている。昨年実施された大会では世界各国、日本各地から3日間で延べ4万人以上のウォーカーが参加した。

誰もが生涯にわたって元気に活躍できる社会の実現が求められる中、ウォーキングは気軽に楽しみながら心身の健康増進を図ることができる生涯スポーツとして愛好者が増えている。日本スリーデーマーチの開催地として、市のアイデンティティとなっているウォーキングを更に普及させるために、市では多くのウォーキングコースの整備やイベントの開催に加え、幼児を対象とした歩育事業^{ほいく}や月例ウォーキングといったウォーキングを軸とした事業を展開し、ウォーキングの魅力を広く発信している。

さらに、世界各国・日本各地から参加する大勢のウォーカーたちを花で歓迎しようと始まった「花いっぱい運動」。ボランティアや自治会、商店会が中心となり、各地区四季折々の花を楽しめるまちづくりに取り組んでいる。現在では地域コミュニティ醸成のツールとしての役割も担っている。

また、東松山市では文化・芸術の振興にも力を入れている。高坂駅西口から約1km続く高坂彫刻プロムナード^{たか た ひろあつ}「高田博厚彫刻群」及びそのほぼ中央にある中通公園で、昨年10月に「ひがしまつやまアートフェスタin高坂彫刻プロムナード2024」が行われた。東松山市にゆかりのある音楽家によるステージ演奏や地元芸術家、大学生によるワークショップが行われ、多くのキッチンカーやアート系ワークショップの出店もあり、市民が芸術に触れる機会を提供するとともに、地元アーティストの発掘や育成、活動機会を提供する場となっている。



自然の中をウォーキングする「日本スリーデーマーチ」

東松山市概要

人口(2025年3月1日現在)	91,063人
世帯数(同上)	43,718世帯
平均年齢(2025年3月1日現在)	48.1歳
面積	65.35km ²
製造業事業所数(経済構造実態調査)	152所
製造品出荷額等(同上)	3,303.7億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	699店
商品販売額(同上)	1,487.6億円
公共下水道普及率	52.9%
舗装率	57.6%

資料:「令和6年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 東武東上線 東松山駅、高坂駅
- 関越自動車道 東松山ICから市役所まで約3km

☀️ 安心して楽しい子育て環境づくり

東松山市では子育て支援に力を入れている。昨年4月に、妊産婦、子育て世帯、こどもへの相談体制や支援を一層充実させるため、これまでの「子育て世代包括支援センター」と「子ども家庭総合支援拠点」の両機能を一体化し、切れ目なく相談・支援を行うため「こども家庭センター」を開設した。「こども家庭センター」では保健師、社会福祉士などの専門相談員が妊娠期から子育て期まで、家庭に寄り添う伴走型の相談・支援を行っている。

また、在宅で子育てをしている家庭の育児負担軽減を目的として、リフレッシュチケットを交付している。同チケットを使って、こどもを預けたい時は一時保育、短時間保育、病児保育などのサービスを、親子で楽しみたい時は、東松山市農林公園内や埼玉県こども動物自然公園などで割引のサービスを受けることができる。

☀️ 観光振興の推進

東松山市には身近に自然を体験できる様々な施設がある。

「東松山市化石と自然の体験館」では、東松山市が海の底だった約1,500万年前の地層から出たサメの歯等の貴重な化石を見ることができるほか、ふるいを使ったり、岩塊を割ったりして化石発掘体験ができる。発掘体験者は間もなく10万人を迎える。

「東松山市農林公園」では、イチゴの摘み取り体験

のほか、タマネギやジャガイモ、サツマイモなど旬の農産物の収穫体験ができる。また、農林公園で採れたイチゴをのせたよもぎ草もち作りや、フラワーアレンジメントのワークショップなど各種教室も開催している。春にはサクラ、夏にはヒマワリ、秋にはコスモスなど四季折々の花を楽しむことができる。

「東松山ばたん園」では、4月中旬～5月上旬に約3万m²の園内で、関東有数の規模である約5,000株の市の花「ばたん」が色鮮やかに咲き誇る(表紙写真)。ばたんのほかにも、アジサイやイロハモミジ、ロウバイなどが植栽されている。大型遊具や展望台などもあり、様々なイベントも開催され、一年を通して楽しむことができる。

市では市内の観光拠点を活用するとともに、高速道路への良好なアクセスを生かし、首都圏からの来客を呼び込む取組を行うことで、更なる地域活性化を図っている。(吉嶺暢嗣)



東松山市化石と自然の体験館